



“さび”といえばアミスター20。収穫3日前まで使えて便利だし、部会のみんなも重宝してるよ。

埼玉県深谷市 細野 勝巳さん(56歳)

代々続く専業農家で農業歴38年のベテラン。JAふかや藤澤支店ねぎ部会の腹部会長。ねぎ1.2ha(龍翔、夏扇3号、夏扇4号ほか)、プロックリー60aなどを作付。



## 3年前から、減化学肥料を実践。 基肥がきれてきたころに、病害が発生!?

その昔、貨物列車で全国にねぎを出荷していたのが深谷駅だったことから、その名で呼ばれるようになった「深谷ねぎ」。このブランドねぎを支えるリーダーの一人、細野勝巳さんをおたずねしました。

細野さんは、3年前ごろから減化学肥料に取り組みはじめ、基肥を有機肥料に切り替え、追肥は、有機と化学を半分ずつ施肥するようになりました。

基肥である有機肥料の養分が切れてきたころ、さび病やべと病といった病害が発生しやすくなるのだとか。

「5～6月は特にさび病、べと病が出やすいから要注意だよ。だから、効果の高い薬剤できちんと予防しておく必要があるんだ」。

細野さんは、夏秋ねぎにアミスターオプティフロアブル(以下、アミスターオプティ)、晩生ねぎにアミスター20フロアブル(以下、アミスター20)を愛用していらっしゃいます。

## さび病、べと病、黒斑病を同時防除。 ローテーション防除の柱だね。

10月に収穫の夏秋ねぎにはアミスターオプティが活躍。6～7月の間に、主にべと病の予防剤として1000倍液を散布します。また、6～7月に収穫の晩生ねぎでは、収穫の5～6日前に、主にさび病を対象にアミスター20の2000倍液を散布していらっしゃいます。

「アミスターオプティは、べと病の予防に抜群。よく抑えてくれてるね。アミスター20も、部会みんなでも重宝してるよ。“さび”といえばアミスター20というイメージだから(笑)」。

どちらのアミスターも、べと病、さび病のほかに黒斑病などが同時防除できるから、ローテーション防除の柱として使いやすい、といます。

「アミスター20は収穫3日前まで使えることもありがたい。気持ち的にラクなんだ」と細野さん。

深谷ねぎのブランドを守るために、細野さんの挑戦は続きます。



syngenta.

シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10 オフィスタワーX 21階  
<http://www.syngenta.co.jp>

農業をご使用の際は、ご購入先、または当社ウェブサイトなどで最新の登録内容をご確認ください。

®はシンジェンタ社の登録商標 TMはシンジェンタ社の商標

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●薬剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器、空袋等は圃場などに放置せず適切に処理してください。

※2009年12月18日現在の情報です。